

# CO患者を守る会誕生!

## 結集された北九州の電通労働者



三池労組本部で討議をすすめる全電通「守る会」の仲間たち

### 交流を深めよう

北福岡支部に結集されている全電通の青年労働者の中には、すでに早くからCO闘争の意識をもち、過去の何回かの三池との交流、または熊大病院入院中のCO患者見舞などの諸行動が組織されてきた。この結集をこの地で挙げる

ためにやってきました。人たちは、いっそう熱意をこめて組合員・家族との交流(地域に「池」の上、熊大病院入院中の患者を見舞う)をすすめてきたが、「これからはCO闘争を自分たちの問題として闘う」という決意がますます固まってきた。

同守る会は、とくにビラをつくらせて、次のように職場の仲間たち

## さらにに会員の獲得へ

### 「自分たちの問題として闘う」

去る二十一日、全電通労組北福岡支部CO患者を守る会(会長「三重野進心」)が結成された。しかも結成式は、当のCO患者を守って闘っている三池労組の本部で挙げられた。このことから、川崎組合長も出席し、よびを分かち合った。現在のところ、会員の数は十八人であるが、これからはそれぞれの職場で会員獲得をめざし、がんばることを、会員一人一人が固く誓い合っており、同守る会の発展には大きな期待が寄せられる。



発行所  
三池炭鉱労働組合  
大牟田市不知火町2  
電話 ③3033番  
③3034番  
編集兼発行人 渡田紀生  
年間600円 送料共

「CO患者・遺族を守る会」結成のために全国の同志たちへみなで働きかけよう!

### 炭労大会

#### 五百円カンパを決定

七月十五日から三日間、東京でひらかれた炭労大会は、国有化闘争方針などを決定したが、その第三日目に「三池のCO闘争関係のカンパに関する件」を満場一致決定した。

これはCO闘争の中で来た一億四千万円の負債を、炭労が組合員一人あたり五百円をカンパし、そのうち約二千万円の返済にあてるために行なわれたものである。このカンパ提案が官本炭労事務局長から行なわれると、現在の炭労各支部がかかっている多くの

### 早くも広がるCO守る会

#### 早くも広がる

このほど全電通北福岡支部の青年労働者の手で、CO患者を守る会が発足したことは別項記事にある通りであるが、三池の難患者によって組織されている各地の不知火会の間にも、すでに早くからCO患者を守る会が誕生する日を持つており、いまはこの運動をどう具体的にすすめるか、中央の炭労・総評における方針決定を待つてゐる。

「カンパは認めざるをえないが三池の休業補償は八〇%だが、われわれは闘争してやると六五%に減らした。三池はさすれば三〇%は減らしてほしい」  
「今後のCO闘争の展望はどうか」  
これらの意見がかわされたが、CO闘争が労災改善、職業病の闘いの重要性を労働運動の中に植えつけ、発展させてきた経過も重視すべきだということになり、全員一致決定されたものである。  
なお、八月十日からひらかれる総評大会では、三十円カンパが提案される。

## 社青同「CO患者を守る会」の組織化をよびかけ

CO闘争をわれわれもともに闘ってきた社青同(日本社生会)青年同盟は、七月二十一日発行の機関紙「青年の声」で「CO患者を守る会の組織化に着手しよう」と、全国に呼びかけを開始した。社青同は昭和四十一年十一月の労災補償打ちきり以来、中央本部、福岡・熊本両地区本部を中心に積極的CO闘争を闘ってきた。とくに、「九日行動」や「CO患者を守る青年の会」の諸行動は、われわれにもよく知られている。

### 早くも広がる

#### 早くも広がる

このほど全電通北福岡支部の青年労働者の手で、CO患者を守る会が発足したことは別項記事にある通りであるが、三池の難患者によって組織されている各地の不知火会の間にも、すでに早くからCO患者を守る会が誕生する日を持つており、いまはこの運動をどう具体的にすすめるか、中央の炭労・総評における方針決定を待つてゐる。

### 早くも広がる

#### 早くも広がる

このほど全電通北福岡支部の青年労働者の手で、CO患者を守る会が発足したことは別項記事にある通りであるが、三池の難患者によって組織されている各地の不知火会の間にも、すでに早くからCO患者を守る会が誕生する日を持つており、いまはこの運動をどう具体的にすすめるか、中央の炭労・総評における方針決定を待つてゐる。

## 臨戦化する日本基地

シエツト機、弾薬輸送、放射能(領)会談で、「ジョンソン大統領あいつら基地事故は偶然では朝鮮動乱中、大韓民国を支援しありません。その背後には在日米軍基地の異常な動きがあります。ことを再確認(共同声明)しました。」「板付はきわめて重要である。」「なせならここが平壌に最も近い日本の基地だからだ。米軍機墜落の翌六月三日、板付基地報道部長のキャンベル大尉は、こういきました(週刊朝日7・5)。墜落した米軍機は夜間の訓練飛行中でした。板付基地はここの一月、米パイロットが朝鮮沖で捕らえられてから、米軍シエツト機がえ、訓練と称する軍事行動が盛んになりました大陸作戦の前ぶれ?」

### 早くも広がる

#### 早くも広がる

このほど全電通北福岡支部の青年労働者の手で、CO患者を守る会が発足したことは別項記事にある通りであるが、三池の難患者によって組織されている各地の不知火会の間にも、すでに早くからCO患者を守る会が誕生する日を持つており、いまはこの運動をどう具体的にすすめるか、中央の炭労・総評における方針決定を待つてゐる。

## 米軍の異常な動き

一月二十日、西日本新聞、中国新聞など基地をもつ地方紙に在日米陸軍人事課の名で、弾薬作業員募集の広告がでて、読者はビックリ。在日米軍基地のなかで最近、とくに活に発動しているのが弾薬基地です。それも広島県に集中して。その中、八月(江田島)両弾薬庫にたびたび弾薬の陸揚げが行なわれ、川上、あるいは北九州の山田弾薬庫へ、危険な陸上輸送が行なわれていることは新聞に報道されたところ。在日米軍の軍需物資貯蔵能力は米極東軍全体の約四〇%におよびとわけています。「瀬戸内海は昔から日本の大陸作戦基地だった。ここが動くときは、大陸作戦の前ぶれといわれる(軍事評論家・林茂夫氏)」。問題は日本全土の基地が臨戦化しており、基地の性格が前線基地化してきたことだ。

全面的な共同作戦へ  
朝鮮作戦への協力義務がベトナム加担の比でないことは、「国連憲章にも」と協力力をうったえた日韓条約(昭和四十年)に明らかです。「一九六六年、三八度線まで戦闘開始」ではじまる自衛隊の「フルラン作戦計画」は、「板付空港を自衛隊航空勢力の戦術基地として」「自衛隊海上勢力は瀬戸内海に集結」など対朝鮮作戦での全面的な日米共同作戦計画です。「九